

授業要項(令和7年度分)

# 1年生

## 作業療法学科

授業科目名	心理学		(フリガナ)	コ バヤシ リョウ スケ		
開講学期	後期			担当教官名	小林亮輔	
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別
科目概要	この授業では、心理を「感情」「思考」「行動」の集合と定義し、この観点から、自己または他者についての理解を深める。また、提出課題となるワークシートや授業内でのグループ活動を通して、学んだ心理学の知識や技術を日常生活において役立てられるようになる。					
到達目標	心理学に関する知識を得るとともに、それらを自身の日常生活に活かせるようにすること。					
回数	授業内容					
1	心理について					
2	感情について					
3	思考・行動について					
4	睡眠について					
5	人付き合いについて					
6	コミュニケーションについて					
7	ストレスマネジメントについて					
8	リラックスについて					
アクティブラーニング	授業の内容、特にコミュニケーションや協力、等を踏まえたグループ活動					
評価基準	提出物 40%、試験 60%					
教科書	特になし					
参考書	特になし					
実務経験に関する記述	公立学校や大学、矯正施設等でのカウンセリング経験を持つ教員が、心理教育の観点から、実用的な知識や技術の教授を意図した実践的教育を行う。					

授業科目名	倫理学		(フリガナ)	田 中 一 馬	
開講学期	後期		担当教官名		
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義 必修・選択 の別
科目概要	倫理に関する基本的な知識を得るとともに、自分の考えを根拠を示しつつ、適切に表明するためには必要な技術を身に付けています。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理学上の基本的な立場の特徴について説明できる。</li> <li>倫理的な問題に対する自らの考えを倫理的に明瞭に表明できる。</li> </ul>				
回数	授業内容				
1	倫理学とは何か：道徳と倫理の違いについて				
2	倫理学に考えるために：価値判断とヒュームの法則				
3	倫理的な価値判断の根拠づけ：帰結主義と非帰結主義・功利主義について				
4	倫理的に考えてみる（その1）：安楽死について				
5	倫理的に考えてみる（その2）：人工妊娠中絶について				
6	倫理的に考えてみる（その3）：出生前診断について				
7	倫理的に考えてみる（その4）：肉食の是非について				
8	まとめ				
アクティブラーニング	毎回問い合わせを発し、それに答えていただきます。				
評価基準	期末試験80%、ワークシート20%の割合です。 理由の立たない欠席は、一回につき5点減点します。				
教科書	特に指定しません。				
参考書	赤林 朗・児玉 聰『入門・倫理学』勁草書房、2018年初版 他、授業時に適宜紹介します。				
実務経験に関する記述					

授業科目名	文化人類学		(フリガナ)	担当教官名		カリ 荏 田 哲 也	
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、島根県奥出雲町の文化、行政、商業、観光、地域医療など多角的視点から調べ、学び、奥出雲町の地域資源や地域課題の理解を深める。						
到達目標	これから4年間学ぶフィールドとなる奥出雲町について、魅力や課題点など地域の理解を深めることができる。また、授業内のグループワークを通じ、新たな仲間と社会人として協働できる。						
回数	授業内容						担当
1	本授業の概要と課題①(奥出雲町の概要)についてのオリエンテーション						苅田哲也
2	課題①のグループワークと発表						苅田哲也
3	課題②(奥出雲の産業、観光、医療・福祉介護施設等について)のオリエンテーション						苅田哲也
4	グループワーク						苅田哲也
5	グループワークと進捗報告						苅田哲也
6	グループワークと進捗報告						苅田哲也
7	グループワーク結果の発表						苅田哲也
8	グループワーク結果の発表						苅田哲也
アクティブラーニング	授業で取り上げる課題に関して、グループワークを行い発表する機会を設ける。						
評価基準	発表(内容・プレゼンテーション・発表資料)60%、授業や課題への取り組み状況40%						
教科書	必要に応じて資料を配布します。						
参考書	必要に応じて資料を配布します。						
実務経験に関する記述							

授業科目名	コミュニケーション論		(フリガナ)	ニシコ オリ ケンジ 担当教官名 錦織 健次			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	理学療法士・作業療法士の実践活動においては他者の考え方の理解や相手に自分の考えを分かりやすく伝えるなど、コミュニケーションは必須の能力となる。本科目では、対人関係構築の基礎となるコミュニケーション技術について、その理論を理解するとともに基本的技法を修得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語的・非言語的コミュニケーションについて説明し、活用することができる。</li> <li>コミュニケーション技法について、自己・他者理解の重要性について説明することができる。</li> <li>コミュニケーション技法を活用して、他者の考え方を引き出すという考え方を身につける。</li> <li>コミュニケーション技法を活用して、自己の考え方を相手に伝え理解してもらうという考え方を身につける。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	本学科の目的、内容、到達目標についてオリエンテーションする。 理学療法士・作業療法士に必要となるコミュニケーションについて説明する。						錦織健次
2	コミュニケーション技法（言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション）についてペアやグループで体験し、理解する。						錦織健次
3	コミュニケーション技法（聴くこと）についてペアやグループで体験し、理解する。						錦織健次
4	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解）、自己開示について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。						錦織健次
5	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解）、自己開示について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。						錦織健次
6	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解）、自己開示について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。						錦織健次
7	コミュニケーションの技法について講義をし、ペアやグループで体験し、理解する。						錦織健次
8	コミュニケーションの技法について講義をし、ペアやグループで体験し、理解する。						錦織健次
アクティブラーニング	理学療法士・作業療法士にとってのコミュニケーションの必要性、コミュニケーション技法について、個人ワーク、学生同士でのコミュニケーションを取りながら学修を行う。						
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%						
教科書	内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）						
参考書	適宜紹介する。						
実務経験に関する記述	主に医療機関、通所リハビリテーション施設にて作業療法士として勤務した教員が、様々な方との体験談を踏まえてコミュニケーションについて教育する。						

授業科目名	キャリアマネジメント論 I		(フリガナ) 担当教官名	スズ 鈴木 キ テツ 哲
開講学期	前期			
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態 講義
必修・選択 の別	必修			
科目概要	キャリア形成に必要な自己分析の方法を、「どのように生きていきたいか？（ライフキャリアと幸せの構成要因）」と「どのように働きたいか？（ワークキャリアと働く目的・意味）」から学ぶ。また、本学在学中のキャリア形成モデルを学び、学生時代のキャリア形成の基礎知識獲得を目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学で主体的なキャリア形成を行っていくことの意義や重要性を理解する。</li> <li>・自己分析の基礎を理解する（ライフキャリアから考えたワークキャリア）。</li> <li>・4年間のキャリア形成モデルを理解する。</li> </ul>			
回数	授業内容			担当
1.2	オリエンテーション 授業の目的と内容理解、到達目標の理解  キャリアとは？ ライフキャリアとワークキャリア 幸福の構成要因とライフキャリア			鈴木 哲
3.4	キャリアとは？ 働く意味とワークキャリア PT・OTの仕事（業務内容・報酬・キャリアラダー）とロールモデル			鈴木 哲
5.6	就職先が求める人材とは？ 本学4年間のキャリア形成モデルについて			鈴木 哲
7～8	PT・OTの多様化			鈴木 哲
アクティブラーニング	自身のライフキャリアを幸せの構成因子から考えるワークを行う。 ワークキャリアを働く意味から考えるワークを行う。 ロールモデルを探すワークを行う。			
評価基準	出席日数と授業態度によって評価を行う			
教科書	適宜資料を配布する。			
参考書	なし			
実務経験に関する記述				

授業科目名	教育学		(フリガナ) 担当教官名	シオ　ヅ　ヒデ　キ 塩　津　英　樹			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 作業療法学科	1年 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別
科目概要	本講義では、教育に関する理論と方法について体系的に学習することを通して、現代の教育について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	1. 教育の意義、目的、理論、方法等について理解している。 2. 現代社会における様々な課題を教育の視点から理解している。 3. 「教育」という事象を手がかりにして、多面的な視野を獲得している。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション - 教育学を学ぶ意味とは -						塩津英樹
2	教育とは - 教育の目的を中心に -						塩津英樹
3	教育の意義と本質 - 人間の成長と発達 -						塩津英樹
4	福祉と人権 - 子どもの権利を中心に -						塩津英樹
5	子どもの教育を支える基盤① - 家庭教育と学校教育 -						塩津英樹
6	共生社会の実現に向けて - 特別支援教育の理念とは -						塩津英樹
7	グローバル化と異文化理解						塩津英樹
8	教育学のまとめ - 若者の社会参画と自己実現 -						塩津英樹
アクティブラーニング	双方向による授業を行うとともに、グループワークを取り入れた対話的な学びを実現する。						
評価基準	受講態度、期末試験等により総合的に評価する。						
教科書	特に指定はしない。講義時に資料を配布する。						
参考書	講義の中で、適宜紹介する。						
実務経験に関する記述							

授業科目名	情報処理		(フリガナ) 担当教官名	アサ ノ カス ヒロ 浅野 保広			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 作業療法学科	1年 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別
科目概要	各アプリケーションを利用してデータの貼付け、リンクの設定 Excel の関数を用いて、用途別のワークシートを作成する。						
到達目標	ユビキタスネットワーク社会において安全に必要な情報を得、また日常のコミュニケーションにおいての良い面、悪い面を把握し、便利な道具として情報機器を操作する姿勢を持つ。						
回数	授業内容						担当
1	セキュリティの現状と対策方法						浅野保広
2	パソコンシステム環境の保全と修復（トラブルの実際検証）						浅野保広
3	正しく伝わる文書・誤変換・文字入力時の注意点等						浅野保広
4	正しく伝わる文書・文書の体裁を整える						浅野保広
5	レポート・報告書作成・基本と常識・パワーポイント使用						浅野保広
6	Excel を使ってのレポート・文書の作成方法						浅野保広
7	Excel 表計算・関数を使用したデータ管理						浅野保広
8	Excel グラフ表計算を使用したレポート作成						浅野保広
アクティブラーニング							
評価基準	受講姿勢・課題提出（70%）と出席日数（30%）により判断します						
教科書	必要に応じて資料を作成配布します						
参考書	必要に応じて資料を作成配布します						
実務経験に関する記述							

授業科目名	物理学		(フリガナ) 担当教官名	尾崎 オザキ トオル 徹	
開講学期	前期				
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態 講義 必修・選択 の別 必修	
科目概要	物理学は、宇宙と物質はどのようにしてできたか、物質はどのような法則に支配されて運動しているか、を明らかにしてきた。最初に力学ができ、それを基礎にした熱力学、光学、電磁気学、と量子力学などの現代物理学が、理工学や医学に広く応用されている。理学療法学と作業療法学の基礎も人体の運動を正確に表す力学であり、現代物理学を応用した最新の医療機器が両分野の発展を支えている。				
到達目標	理学療法学と作業療法学を習得して医療をおこなうために必要な物理学（主に力学）の考え方と使い方を学ぶ。その指針になるのが、運動の3法則、力のつり合い、力のモーメントのつり合い、圧力のつり合いである。それらを身に着けるために、講義を復習して、課題レポートを提出する。それが予習にもなる。				
回数	授業内容				担当
1	理学療法学と作業療法学を習得するための基礎となる物理学は、力学、熱力学、光学、電磁気学、と量子力学などの現代物理学であることを予め知る。また、それらの物理学を表す物理量が、国際単位系（SI）の単位をもち、また有効数字をもつことを学ぶ。				尾崎 徹
2	力学では運動の表し方を学ぶ。そのために必要な物理量は、方向と大きさを表すベクトル量と大きさだけを表すスカラー量である。ベクトル量として位置、速度、加速度と力を、スカラー量として質量、時間とエネルギーを学ぶ。それらを扱うために、ベクトルと三角関数を復習する。				尾崎 徹
3	重力、弾性力、摩擦力などの力の正体を学ぶ。運動の3法則から出発して、ボールや人体はもちろん、天体の運動も表すことができる。それを、力のつり合いや落下運動、さらに身体測定への応用などの例をとおして学ぶ。				尾崎 徹
4	力が物体に仕事をして力学的エネルギーが生じる。逆に、力学的エネルギーは仕事をする。力学的エネルギーの保存を利用して物体の運動を調べることができる。私たちは力学的エネルギーを変換して利用していることも学ぶ。				尾崎 徹
5	大きさをもつ物体には重心があり、そこに全ての質量が集中して重力が作用すると考える。ここでは物体を質点の集まりとして、てこや人体などの重心の測定法を学ぶ。てこに作用する重力と力のモーメントによるつり合い、滑車に作用する力とトルクによるつり合いも学ぶ。				尾崎 徹
6	熱力学では、圧力とは何か、温度とは何かを学ぶ。まず圧力のつり合いから、気圧と血圧の測定法を学ぶ。また、熱平衡状態を理解して、気温と体温の測定法を学ぶ。さらに、熱を含むエネルギーが保存することを理解する。				尾崎 徹
7	波動の数学的な表現法と物理的な性質を、音波と電磁波を例にして学ぶ。とくに、音波と電磁波の伝わり方が異なることを理解して、それらが超音波やX線を用いた画像診断に活用されることを理解する。				尾崎 徹
8	現代物理学の応用例を学ぶ。電流は電子の流れであり、電圧と電流と抵抗の間にオームの法則が成り立って、電子体温計が働く。光は電磁波であると同時に光子と呼ばれる粒子の流れであり、おかげで非接触温度測定ができる。光子は赤血球中の鉄原子と相互作用をして吸収される。それをパルスオキシメーターによって測定して血中酸素濃度を得る。				尾崎 徹
アクティブラーニング	講義内容や演示した実験について質問を受ける。また、毎回出題される問題を解き、課題レポートとして提出する。				
評価基準	期末試験 70%、課題レポート 30%、合計 100% のうち 60% 以上を合格とする。				
教科書	講義と課題レポートの資料を配布する。				
参考書	図書室にある教科書2冊の内容を紹介するQRコード ・北野保行: 優しい物理学<第2版>, 学校法人多学園. ・尾崎 徹: 基礎物理 WORKBOOK<第2版>, 東京教学社.				
実務経験に関する記述					

授業科目名	英語 -Reader-		(フリガナ) 担当教官名	ホワイト マシュー ベネット White Matthew Bennett		
開講学期	前期					
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業形態 講義	必修・選択の別 講義	必修
科目概要	Self-improvement and confidence in reading and speaking English. Using English for health care and social purposes.					
到達目標	Achieving greater competence in English language as a tool for communication.					
回数	授業内容					担当
1	Meeting people + self-introduction ; addresses and personal info					White Matthew Bennett
2	Explaining the location of objects in a room ; parts of a house					White Matthew Bennett
3	Explaining the location of people and places.					White Matthew Bennett
4	Describing everyday activities ; parts of the face					White Matthew Bennett
5	Describing the location and activities of people.					White Matthew Bennett
6	Talking about everyday activities using possessive adjectives					White Matthew Bennett
7	Reading for content ; practical vocabulary					White Matthew Bennett
8	Describing people and things using possessive nouns					White Matthew Bennett
9	Describing people using adjectives ; parts of the human body					White Matthew Bennett
10	Describing activities and events ; family members					White Matthew Bennett
11	Talking about family members					White Matthew Bennett
12	Locating places in a city ; asking for directions					White Matthew Bennett
13	Describing buildings ; asking about quantities					White Matthew Bennett
14	Naming and describing clothing ; plural nouns					White Matthew Bennett
15	Review of course contents					White Matthew Bennett
アクティブラーニング	Pair and group conversation activities. Problem solving activities in groups.					
評価基準	Class participation + Attendance ; Homework Completion ; Regular Quizzes					
教科書	Side by Side Level 1 Extra : Student Book + eText 1, Workbook 1 with CD Steven J.Molinsky + Bill Bliss. Pearson/Longman,publishers.					
参考書	English-Japanese/Japanese-English dictionary (paper or electronic)					
実務経験に関する記述						

授業科目名	英語 -Speech-		(フリガナ) 担当教官名	ホワイト マシュー ベネット White Matthew Bennett		
開講学期	後期					
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業形態 講義 必修・選択の別 必修		
科目概要	Self-improvement and confidence in reading and speaking English. Using English for health care and social purposes.					
到達目標	Achieving greater competence in English language as a tool for communication.					
回数	授業内容					担当
1	Describing daily activities ; common questions					White Matthew Bennett
2	Countries, languages and nationalities					White Matthew Bennett
3	Talking about occupations; reading about daily activities					White Matthew Bennett
4	Talking about interests and habits ; review of nationalities					White Matthew Bennett
5	Asking questions about interests and habits ; Yes/No questions					White Matthew Bennett
6	Describing the frequency of activities and habits					White Matthew Bennett
7	Asking about the frequency of activities and habits ; describing people					White Matthew Bennett
8	Describing feelings and emotions ; asking "why" questions					White Matthew Bennett
9	Giving reasons for actions ; Organs of the human body					White Matthew Bennett
10	Expressing ability ; asking about ability/obligations					White Matthew Bennett
11	Inviting; accepting and refusing invitations					White Matthew Bennett
12	Describing future plans and intentions					White Matthew Bennett
13	Telling time; describing and asking about "when"					White Matthew Bennett
14	Describing illnesses and causes ; referring to the past					White Matthew Bennett
15	Review of course contents					White Matthew Bennett
アクティブラーニング	Pair and group conversation activities. Problem solving activities in groups.					
評価基準	Class participation + Attendance ; Homework Completion ; Regular Quizzes					
教科書	Side by Side Level 1 Extra : Student Book + eText 1, Workbook 1 with CD Steven J.Molinsky + Bill Bliss. Pearson/Longman, publishers.					
参考書	English-Japanese/Japanese-English dictionary (paper or electronic)					
実務経験に関する記述						

授業科目名	保健体育－講義－		(フリガナ) 担当教官名	コ ザ克拉 カズ ヒロ 小 櫻 和 裕			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	テーマに沿って情報を収集し、資料を読み込み、自分の考えと結び付けて発展させ、発見したことと学んだことをまとめる。						
到達目標	調べた内容を読み手にわかりやすいようにまとめる。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション						小櫻和裕
2	マンダラートの作成						小櫻和裕
3	マンダラートを基にレポート作成						小櫻和裕
4	配布資料を基にレポート作成						小櫻和裕
5	配布資料を基にレポート作成						小櫻和裕
6	配布資料を基にレポート作成						小櫻和裕
7	配布資料を基にレポート作成						小櫻和裕
8	レポートの完成						小櫻和裕
アクティブラーニング							
評価基準	レポート 90%、出席・態度 10%合計 100%とし 60%以上を合格とする。						
教科書	なし						
参考書	適宜配布する						
実務経験に関する記述							

授業科目名	保健体育－実技－		(フリガナ)	小 ザクラ カズ ヒロ 櫻 和 裕			
開講学期	前期		担当教官名				
対象学科及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	45 1	授業形態	実技	必修・選択の別	必修
科目概要	ライフスタイルの変化に応じたスポーツのかかわりを通じて、健康の保持・増進に関する知識を習得し、実践できる能力を高める。						
到達目標	1. 自分のライフステージの中で体力に応じた運動を実践することができる。 2. スポーツの実践を通じて人間関係を円滑にする。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション（選択種目の決定、ワークシートの作成、マナー・ルールの確認）						小櫻和裕
2～11	各種、個人・団体種目の実践（選択制）						小櫻和裕
12	オリエンテーション（選択種目の継続または変更、怪我の防止）						小櫻和裕
13～23	各種、個人・団体種目の実践（選択制）						小櫻和裕
アクティブラーニング							
評価基準	選択科目の実践状況（準備、技術練習、試合、片付け、ルール、マナー）70% レポート提出 20%、出席状況 10%、合計 100% とし 60% 以上を合格とする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
実務経験に関する記述							

授業科目名	解剖学講義 I (筋骨格系)		(フリガナ) 担当教官名	ヨコタ シゲフミ 横田 茂文			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	PT・OTにとって重要な骨学とその連結である関節・韌帯および運動に関わる筋について詳細に学び、PT・OTとして医療に関わる基礎を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨の構造や発生について総論的に理解するとともに個々の骨の名称を正確に知る。</li> <li>骨の連結（広義の関節）の正常な構造と機能を知る。</li> <li>人体の主要な骨格筋について、その構造を知り、作用を理解する。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	解剖学総論						横田茂文
2	頭蓋骨						横田茂文
3	脊柱、胸郭						横田茂文
4	上肢の骨（1）						横田茂文
5	上肢の骨（2）						横田茂文
6	上肢の連結						横田茂文
7	下肢の骨（1）						横田茂文
8	下肢の骨（2）						横田茂文
9	下肢の連結						横田茂文
10	頭頸部の筋						横田茂文
11	体幹の筋						横田茂文
12	上肢の筋（1）						横田茂文
13	上肢の筋（2）						横田茂文
14	下肢の筋（1）						横田茂文
15	下肢の筋（2）						横田茂文
アクティブラーニング							
評価基準	期末試験（100%）						
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第6版）（奈良 勲ら監修、医学書院）						
参考書	Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）						
実務経験に関する記述							

授業科目名	解剖学講義Ⅱ（神経系）		(フリガナ) 担当教官名	ヨコタ シゲフミ 横田 茂文			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	神経系の疾患や障害はPT・OTの対象となることが極めて多い。その病態を理解することや治療を施すために必要な脳・脊髄の立体的な構造と各部位の機能を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳および脊髄の構造を理解し、それらを機能と関連付けて説明できる。</li> <li>・脊髄神経、脳神経および自律神経系の基本構成を理解する。</li> <li>・感覚器系の構造を理解し、脳神経との関連を説明できる。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	神経学総論、自律神経						横田茂文
2	中枢神経（1）						横田茂文
3	中枢神経（2）						横田茂文
4	中枢神経（3）						横田茂文
5	中枢神経（4）						横田茂文
6	中枢神経（5）						横田茂文
7	中枢神経（6）						横田茂文
8	中枢神経（7）						横田茂文
9	脊髄神経（1）						横田茂文
10	脊髄神経（2）						横田茂文
11	脊髄神経（3）						横田茂文
12	脳神経、感覚器（1）						横田茂文
13	脳神経、感覚器（2）						横田茂文
14	脳神経、感覚器（3）						横田茂文
15	脳神経、感覚器（4）						横田茂文
アクティブラーニング							
評価基準	期末試験（100%）						
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第6版）（奈良 黙ら監修、医学書院）						
参考書	Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）						
実務経験に関する記述							

授業科目名	解剖学講義Ⅲ（内臓系）		(フリガナ) 担当教官名	ヨコタ　シゲフミ 横田　茂文			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	循環器や消化器といった内臓の機能や機能を司る構造とその位置を学び、PT・OTに必要な知識を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心臓の構造と全身の血管系の分布および門脈系と胎生期の循環系を理解する。</li> <li>消化、ガス交換および発声に関わる構造を説明できる。</li> <li>性別による生殖器の構造の違いを理解する。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	循環器系（1）						横田茂文
2	循環器系（2）						横田茂文
3	消化器系（1）						横田茂文
4	消化器系（2）						横田茂文
5	呼吸器						横田茂文
6	泌尿器						横田茂文
7	生殖器						横田茂文
8	内分泌器						横田茂文
アクティブラーニング							
評価基準	期末試験（100%）						
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第6版）（奈良 勲ら監修、医学書院）						
参考書	Qシリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）						
実務経験に関する記述							

授業科目名	生理学講義 I (動物生理)		(フリガナ) 担当教官名		橋	モト	ミチ	オ	スズ	キ	テツ
開講学期	前期				ハシ	モト	ミチ	オ	スズ	キ	哲
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修				
科目概要	人体の運動機能とその調節について学び、解剖学などの知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解することを目的とする。講義は1.組織・細胞の基礎、2.神経系の生理学的機能、3.筋系の生理学的機能、4.神経-筋機能、5.骨系の生理学的機能、6.感覚系の生理学的機能で構成される。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の体液組成とホメオスタシスについて説明できる。</li> <li>・神経の働きや、反射、自律神経等についてそのメカニズムを説明できる。</li> <li>・筋収縮とその神経メカニズムについて説明できる。</li> <li>・骨の機能と代謝についてそのメカニズムを説明できる。</li> <li>・体性感覚や視覚、聴覚の生理学的メカニズムを説明できる。</li> </ul>										
回数	授業内容										担当
1	生理学の概要、細胞の構造と機能										橋本道男
2	人体の体液組成とホメオスタシス										橋本道男
3	組織・細胞の基礎										鈴木 哲
4	神経系の役割と生理的機能										鈴木 哲
5	筋収縮機序の生理的メカニズム										鈴木 哲
6	反射のメカニズム										鈴木 哲
7	自律神経の調整メカニズム										鈴木 哲
8	脳神経の働き										鈴木 哲
9	体性感覚その1(触覚、温痛)										鈴木 哲
10	体性感覚その2(関節覚、振動感)										鈴木 哲
11	特殊感覚の生理的メカニズム										鈴木 哲
12	特殊感覚の生理的メカニズム										鈴木 哲
13	骨系の役割と生理学的機能										鈴木 哲
14	骨吸収と骨形成のメカニズム										鈴木 哲
15	授業全体のまとめ										鈴木 哲
アクティブラーニング											
評価基準	<p>期末試験 60%、出席日数・授業態度 20%、レポート提出 20%</p> <p>※期末試験は1回行い、60点以上を合格とする。60点未満の場合再試験を受験することができる。</p> <p>※期末試験の得点、出席日数・授業態度の得点、レポート提出得点の合計が総得点(100点)の60%以上を単位認定とする。</p>										
教科書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版 医学書院										
参考書	標準生理学 第8版 医学書院										
実務経験に関する記述											

授業科目名	生理学講義Ⅱ（植物生理）		(フリガナ) 担当教官名	橋 本 道 男	
開講学期	後期				
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義 必修・選択 の別
科目概要	正常な生体機能を維持するための、血液機能、免疫機能、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、腎機能、体温調節・エネルギー代謝機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学習する。それにより生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムかを考える。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液の成分と機能について説明できる。</li> <li>・免疫機能について説明できる。</li> <li>・呼吸に関する肺活量、血液ガス、酸素飽和度、酸塩基平衡について説明できる。</li> <li>・心臓の収縮メカニズムとそれに伴う血管の変化について説明できる。</li> <li>・血圧・脈拍・心拍数が変化するメカニズムを説明できる。</li> <li>・心臓における刺激伝導系のメカニズムと心電図を説明できる。</li> <li>・消化吸収のメカニズムについて説明できる。</li> <li>・筋収縮とエネルギー代謝の関連性について説明ができる。</li> </ul>				
回数	授業内容				担当
1	血液の成分と機能				橋本道男
2	免疫の仕組み				橋本道男
3	循環の仕組み、心臓収縮における刺激伝導系の役割と心周期について				橋本道男
4	心臓機能調節のメカニズム				橋本道男
5	血管機能評価とその調節系について、特殊循環について				橋本道男
6	呼吸における肺・気管支の生理的メカニズム				橋本道男
7	呼吸調節における生理学的メカニズム				橋本道男
8	呼吸機能と肺機能評価との関連性について				橋本道男
9	消化における物理・化学的機能の種類と役割について				橋本道男
10	消化における各臓器の相互関係とメカニズム				橋本道男
11	排便における各臓器の相互作用と生理的メカニズム				橋本道男
12	尿の生成に関する腎臓のメカニズム				橋本道男
13	排尿調節・酸塩基平衡について、排尿反射のメカニズム				橋本道男
14	体温調節について				橋本道男
15	筋収縮とエネルギー代謝、授業全体のまとめ				橋本道男
アクティブラーニング					
評価基準	<p>期末試験 60%、出席日数・授業態度 20%、レポート提出 20%</p> <p>※期末試験は2回行い、得点の平均を期末試験の得点とする。それぞれ試験において60点以上を合格とし、60点未満の場合再試験を受験することができる。</p> <p>※期末試験の得点、出席日数・授業態度の得点、レポート提出得点の合計が総得点（100点）の60%以上を単位認定とする。</p>				
教科書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版 医学書院				
参考書	標準生理学 第8版 医学書院				
実務経験に関する記述					

授業科目名	運動学－講義－	(フリガナ)	担当教官名	山崎 健治				
開講学期	前期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 2	授業形態 講義	必修・選択の別 必修			
科目概要	リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要である。本科目は、人間の身体運動に関する基本的な知識を習得することを目的とする。講義は主に、運動学に必要な力学、運動器の構造と機能一般、上肢帯と上肢の運動、下肢帯と下肢の運動、脊柱・体幹の運動、姿勢、歩行に関して学習する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動力学の基礎的事項（力、モーメント、身体のてこ等）について理解し、説明することができる。</li> <li>運動に関わる専門用語（運動面、運動方向、運動軸、肢位、姿勢）を理解し、説明することができる。</li> <li>上肢の構造と運動機能について理解し、説明することができる。</li> <li>下肢の構造と運動機能について理解し、説明することができる。</li> <li>体幹の構造と運動機能について理解し、説明することができる。</li> <li>ヒトのアライメントと重心位置について理解し、説明することができる。</li> <li>姿勢保持、歩行の運動学を理解し、適切に説明することができる。</li> </ul>							
回数	授業内容				担当			
1	運動学の基礎（力、モーメント、身体のてこ等）				山崎健治			
2	運動学の基礎（運動面、関節運動と面・軸、肢位・姿勢、収縮様式）				山崎健治			
3	上肢の構造と運動機能（上肢帯、肩関節）				山崎健治			
4	上肢の構造と運動機能（肘関節、手関節、前腕）				山崎健治			
5	下肢の構造と運動機能（骨盤帯、股関節）				山崎健治			
6	下肢の構造と運動機能（膝関節、足関節）				山崎健治			
7	体幹の機能と構造				山崎健治			
8	脊柱の構造と運動機能（頸椎、胸椎）				山崎健治			
9	脊柱の構造と運動機能（腰椎、仙椎）				山崎健治			
10	バランスの戦略				山崎健治			
11	姿勢アライメントと重心				山崎健治			
12	歩行の基礎（歩行周期、歩行時の重心移動と角度変化）				山崎健治			
13	歩行の基礎（床反力、筋のモーメント）				山崎健治			
14	小児と老人の歩行の特徴				山崎健治			
15	授業の振り返り				山崎健治			
アクティブラーニング	特記事項なし。							
評価基準	期末試験 80%、出席日数・授業態度 20%							
教科書	運動学（15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト）第2版 中山書店 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版							
参考書	「基礎運動学 第6版補訂」（医歯薬出版）							
実務経験に関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、運動学の基礎を教授する。							

授業科目名	運動学－実習－		(フリガナ) 担当教官名	ヤマ 山 サキ 崎 ケン 健 ジ 治 ツノ 角 ダ 田 ユ 良			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	45 1	授業形態 実習	必修・選択の別	必修	
科目概要	運動学講義で習得した知識を基盤に、体表からの視診・触診、姿勢保持、基本的動作の観察と分析を行い、基本的動作の特徴や仕組みについて学ぶ。さらに、この実習を通して、運動学的計測手法（筋電図、三次元動作解析装置）について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頸部、体幹、上肢、下肢を構成する骨、筋を体表から視診・触診することができる。</li> <li>・基本的動作を観察し、相、筋活動、重心移動、外的モーメント、内的モーメントを分析し、説明することができる。</li> <li>・基本的な筋電図の計測方法を理解し、得られたデータを動作の分析に活用できる。</li> <li>・基本的な三次元動作解析装置の計測方法を理解し、得られたデータを動作の分析に活用できる。</li> </ul>						
回数	授業内容				担当		
1					山崎健治 角田有良		
2	骨の解剖的位置の理解と視診・触診実技						
3							
4					山崎健治 角田有良		
5	筋の解剖的位置の理解と視診・触診実技						
6							
7	上肢、下肢、頸部、体幹の関節運動と筋作用 三次元動作解析装置の演習				山崎健治		
8					山崎健治		
9					山崎健治		
10	姿勢保持のバイオメカニクス 姿勢の観察と運動学的要素の分析				山崎健治		
11					山崎健治		
12	寝返り動作のバイオメカニクス 寝返り動作の観察と運動学的要素の分析				山崎健治		
13	起き上がり動作のバイオメカニクス 起き上がり動作の観察と運動学的要素の分析				山崎健治		
14					山崎健治		
15	立ち上がり動作のバイオメカニクス 立ち上がり動作の観察と運動学的要素の分析				山崎健治		
16					山崎健治		
17					山崎健治		
18	正常歩行動作のバイオメカニクス 歩行動作の観察と運動学的要素の分析				山崎健治		
19	小児、成人、老人における各要素の変化						
20					山崎健治		
21	観察・分析を行った姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・立ち上がり動作・歩行をグループでまとめる。発表準備				山崎健治		
22					山崎健治		
23	各動作の観察・分析結果をグループで発表する。				山崎健治		
アクティブラーニング	1組3人～4人のグループを形成し、グループで課題を進める。 最終授業では、反転授業を用い、準備と反転授業の実践を通して内容の理解を深める。						
評価基準	発表：30% 成果物：30% 取り組み：30% 出席日数・授業態度：10% ※成果物はポートフォリオ形式を取り、科目を通して習熟度を評価する。						
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 メジカルビュー 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 メジカルビュー 運動学（15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト）第2版 中山書店 動作分析 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 第1版 メジカルビュー						
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 第3版 医歯薬出版						
実務経験に関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、演習を通じて人体の構造と身体運動（基本的動作）の関係を教授する。						

授業科目名	人間発達学		(フリガナ) 担当教官名	イ トウ テル タカ 伊 藤 晃 崇				
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修	
科目概要	<p>生涯にわたる心身の『典型的な発達』を幅広い観点から学びます。そうすることで『発達』が、さまざまな基盤が整うことで初めて発揮される現象であることがわかるようになります。『発達の障害』の構造を理解することに役立ちます。</p> <p>前半では、発達に関する基本的な理論を学習し、各発達段階の特徴を見ていきます。後半では、運動、認知、コミュニケーション・社会性、ADL（食事、排せつなど）の領域ごとの発達を整理します。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の原則を理解する。</li> <li>・各発達段階と各発達領域の特徴を理解し、相互の関連と順序を述べることができる。</li> <li>・『発達の障害』を、発達段階、発達領域、生活構造、および社会構造と関連させながら理解する。</li> </ul>							
回数	授業内容							担当
1	発達学総論、胎生期の特徴							伊藤晃崇
2	新生児・乳児期・幼児期の特徴							伊藤晃崇
3	児童期・青年期の特徴							伊藤晃崇
4	成人期の特徴							伊藤晃崇
5	老齢期の特徴、発達検査							伊藤晃崇
6	姿勢・運動の発達、原始反射、微細運動・目と手の協調運動の発達							伊藤晃崇
7	認知の発達、社会性・コミュニケーションの発達							伊藤晃崇
8	ADLの発達、遊び・仕事の発達							伊藤晃崇
アクティブラーニング								
評価基準	受講態度、期末試験などにより総合的に評価します。							
教科書	笹田哲（編）「発達段階×領域別で理解度UP！イラストと動画で学ぼう！人間発達学」診断と治療社							
参考書	奈良勲・鎌倉矩子（シリーズ監修）「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野人間発達学 第2版」 医学書院							
実務経験に関する記述								

授業科目名	病理学概論		(フリガナ) 担当教官名	ナビ 並 カ 河 トオル 徹		
開講学期	後期					
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業形態 講義 必修・選択の別 必修		
科目概要	病気の成り立ちを、正常な組織の形、機能を踏まえて理解する。					
到達目標	主要な病態とその成り立ちについて説明できる。					
回数	授業内容					
1	人体の構造（復習）、細胞障害 1					
2	細胞傷害 2、創傷治癒					
3	循環障害と循環器疾患 1 梗塞、うつ血、出血					
4	循環障害と循環器疾患 2 浮腫、ショック					
5	炎症					
6	免疫					
7	腫瘍					
8	病態各論 呼吸器、神経、遺伝性疾患					
アクティブラーニング	毎時間 小テスト実施					
評価基準	筆記試験の成績での評価					
教科書	「病理学」疾病の成り立ちと回復の促進、医学書院出版、第6版					
参考書	担当教員が作成した資料を配布する。					
実務経験に関する記述	大学医学部で病理学の講義を担当。病理診療等担当。					

授業科目名	リハビリテーション概論		(フリガナ) 担当教官名	アオキ リュウタロウ・ゴトウトモキ 青木 竜太朗・後藤 智基
開講学期	前期			
対象学科 及び学年	理学療法学科 作業療法学科	1年 1年	時間数 単位数	30 2 授業形態 講義 必修・選択の別 必修
科目概要	リハビリテーションは、保険医療福祉分野に求められ、活動範囲は医療提供施設や福祉施設に限らず、地域まで多岐にわたる。この科目では、リハビリテーションの理念や歴史、様々な現場での理学・作業療法士の役割や業務内容について学ぶ。さらに関連職種の役割も理解し多職種連携についても学ぶ。加えて、これらの学びを通じ理学・作業療法士としての専門職意識を高めることも重要な目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療人、リハ専門職としてふさわしい倫理観、思考、態度を身に着けることができる。</li> <li>・将来関わる対象者を敬う心を身に着けることができる。</li> <li>・ノーマライゼーション、リハビリテーションの概念を説明できる。</li> <li>・関連諸制度について理解し、説明できる。</li> <li>・PT・OTの業務について、対象、職域、内容の概要を説明できる。</li> <li>・PT・OT関連職種の業務役割や内容を説明でき、チーム連携の概念を説明できる。</li> </ul>			
回数	授業内容			
1	オリエンテーション リハビリテーションの概念理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの歴史と概念</li> <li>・ノーマライゼーション、IL運動</li> </ul> リハ専門職の思考と態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいを持つ者の理解</li> <li>・医の倫理</li> </ul>			
2~3	事例で考えるリハビリテーション（演習） <ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期の事例</li> <li>・生活期の事例</li> </ul>			
4~5	PT、OTの対象と職域 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病期に応じた対象と職域</li> <li>・保険制度に応じた対象と職域</li> </ul> リハビリテーションの種類に応じた対象と職域（医学的、職業的、教育的、社会的）			
6	リハビリテーションに関わる関連職種の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ専門職：PT、OT、ST</li> <li>・関連職種：医師、看護師、介護支援専門員等</li> </ul>			
7~8	医療従事者に必要な社会スキルについて（姿勢態度・記載）			
9~12	施設見学 施設に赴き、実際にPT・OTの業務を見学する			
13	施設見学の共有ワーク			
14~15	関連法規 <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士及び作業療法士違法の理解</li> <li>・個人情報保護法</li> <li>・独占資格</li> <li>・国家試験の理解</li> </ul>			
アクティブラーニング	事例検討などのグループディスカッションを通じて知識を深める			
評価基準	出席状況、授業態度10%、ポートフォリオ60%、確認テスト30%で判定し60%以上を単位認定する 全体評価が60%の者あるいは期末試験において60点未満の者はレポート課題を行う。			
教科書	はじめての講義 リハビリテーション概論のいろは（川手信行、南江堂）			
参考書	適宜配布			
実務経験に関する記述	身体障害分野の病院にて8年間勤務した作業療法士が行う。また、実務家教員による実践を伝えてもらう。			

授業科目名	社会福祉論		(フリガナ) 担当教官名	浜村 修 ハマ ムラ オサム						
開講学期	後期									
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修			
科目概要	①社会福祉の概念を理解し、人がより良い生活を実現するために社会福祉が果たす役割について学ぶ ②社会保障制度が人々の生活にどのように関係しているのかについて学ぶ。									
到達目標	社会福祉が人々の生活にどのような役割を果たしているのかについて理解できる。									
回数	授業内容							担当		
1	社会福祉の概要・医療と福祉							浜村 修		
2	社会資源としての年金							浜村 修		
3	介護保険の実践							浜村 修		
4	労働者の福祉施策							浜村 修		
5	生活保護の実践							浜村 修		
6	児童福祉							浜村 修		
7	障がい者福祉							浜村 修		
8	福祉における社会保障の課題と展望・まとめ							浜村 修		
アクティブラーニング										
評価基準	期末試験結果及び出席状況を勘案し、評価を行う。									
教科書	「最新・社会福祉士養成講座 7 社会保障 第2版」中央法規出版、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集									
参考書	必要に応じてパンフレットや資料配布									
実務経験に関する記述	地方自治体職員として25年間、社会保障や税制度に携わってきた講師が、福祉における社会保障制度の実際の運用や課題などを例示し実践的な教育を行う。									

授業科目名	公衆衛生学		(フリガナ) 担当教官名	タニ グチ カオリ 谷 口 かおり			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	人々の健康を支える医療、介護政策をはじめとする公衆衛生学の基礎知識を身につける。さらに授業での学習内容を踏まえ、地域住民のニーズやコミュニティの医療・介護資源を調査し、地域の健康課題を明らかにする。						
到達目標	1. 公衆衛生学の基本的な知識を習得している 2. 地域に参入し、人々と円滑なコミュニケーションがとれる 3. 公衆衛生学の知識を踏まえ、地域が抱える健康問題について議論できる						
回数	授業内容						担当
1	公衆衛生学概論、保健統計						谷口かおり
2	疫学						谷口かおり
3	疾病予防と健康増進						谷口かおり
4	感染症						谷口かおり
5	医療と福祉制度						谷口かおり
6	高齢者保健						谷口かおり
7	事例演習						谷口かおり
8							谷口かおり
アクティブラーニング	地域に暮らす人々の健康を守るために、事例を通して、医療・介護・福祉のあらゆる側面から住民のニーズと地域の資源を調査、診断する。地域全体が抱える住民の健康課題についてグループワークを実施する。						
評価基準	授業への積極的な参加や態度:20%, 定期試験:60%, 実習報告書:10%, 報告会での発表・ワークシート:10%						
教科書	シンプル公衆衛生学 [2025] 南江堂						
参考書	国民衛生の動向 [2024/2025] 厚生労働統計協会						
実務経験に関する記述	大学病院で急性期医療に16年、診療所での在宅医療・慢性期医療に3年の臨床経験を持つ教員が、地域に暮らす住民の健康問題の抽出や、行政との関わりなど実践的な教育を行う。						

授業科目名	チーム医療論		(フリガナ) 担当教官名	ヤマモトケイコ・松本 賢治				
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 作業療法学科	1年 1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修
科目概要	わが国では人口の高齢化、慢性疾患の増悪などを背景に複雑な問題を抱える患者の全人的ケア、継続的ケアを単一の医療専門職のみで行うことは不可能となっており、各専門職が連携・協働する力は医療専門職として必須であり、患者中心の効率的な医療を提供するため多職種連携のチーム医療が推奨されている。そこで本科目では、チーム医療について、チームの成り立ちから阻害因子等、発展させるための機能について学習する。							
到達目標	チーム医療の機能と役割を理解する チームの変化を体験し一緒にくる							
回数	授業内容						担当	
1	チーム医療とは何かを理解する						山本恵子	
2	自分を知る・相手を知る・チームを知る						山本恵子	
3	合意形成を理解する						山本恵子	
4	模擬カンファレンス等を用いて、チーム医療の実践の一部を見学しながら理解を深める。加えて、各職種の仕事を理解する。						松本 賢治	
5	模擬カンファレンス等を用いて、チーム医療の実践の一部を見学しながら理解を深める。加えて、各職種の仕事を理解する。						松本 賢治	
6	実際のチーム医療の実践を調べる						山本恵子	
7	チーム医療の実践を発表する						山本恵子	
8	まとめ						山本恵子	
アクティブラーニング	チーム医療について、見学したチーム医療の実践の一部と演習を活用して、チームの機能と役割、及び、チーム医療の一員となる自らの発言及び行動について阻害因子、ありかたの視点で、グループ毎にディスカッションし、まとめる。							
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%							
教科書	内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）							
参考書	水本清久ほか（編著）；『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 実際と教育プログラム』（医歯薬出版） 京極真（著）；『信念対立解明アプローチ入門－チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』（中央法規出版）							
実務経験に関する記述	急性期・亜急性期を担う病院で10年半の臨床経験を持ち、病棟配属にて多職種連携チームの発足に携わった教員がメンバーシップの視点から多職種連携によるチーム医療について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。							

授業科目名	作業療法概論		(フリガナ) 担当教官名	ヨシ 吉 ダ 田 俊 輔			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	作業療法学科	1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別
科目概要	本科目では、作業療法の学問的な基礎を学習することを目的とする。科目を通して、「作業」や「作業療法」を自身のことばで説明可能となるよう展開していく。授業内容には、作業療法の歴史、職域、倫理、作業療法理論などが含まれる。また、国際生活機能分類を用いた演習なども取り入れる。これにより、作業療法は人の健康と幸福の促進するために、人・作業・環境というダイナミックな視点を持つ職種であることの理解を深める。						
到達目標	1. 作業療法と作業について、その成り立ちを含め、説明することが出来る。 2. ICF の概念を説明できる。 3. 作業療法の代表的な理論（人間作業モデルやカナダモデルなど）の概要を説明できる。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション（本科目の概要、到達度、評価基準等の説明） 「作業」とは何か、「作業療法」とは何か						吉田俊輔
2	作業療法の対象と領域						吉田俊輔
3	作業療法の実践過程						吉田俊輔
4	各領域における作業療法実践						OT 学科教員
5							
6							
7	作業療法の歴史						吉田俊輔
8	作業療法に関する法律と倫理						吉田俊輔
9	国際生活機能分類（ICF）						吉田俊輔
10	国際生活機能分類（ICF）						吉田俊輔
11	作業療法の代表的な理論（人間作業モデル、カナダモデルなど）						吉田俊輔
12	作業療法の代表的な理論（人間作業モデル、カナダモデルなど）						吉田俊輔
13	作業療法の代表的な理論（人間作業モデル、カナダモデルなど）						吉田俊輔
14	作業療法の代表的な理論（人間作業モデル、カナダモデルなど）						吉田俊輔
15	求められる作業療法士とは						吉田俊輔
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。</li> <li>担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。</li> <li>グループワークの資料は教員が学生に配布する、もしくは学生が調べていく。学生は資料を見ながら課題について、ディスカッションを行い、発表をする。</li> </ul>						
評価基準	レポート 50%、授業態度（コミュニケーションスキル、ワークへの取り組み姿勢）50%						
教科書	世界保健機関（WHO）：国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－、中央法規 石川朗ほか：作業療法概論 <15 レクチャーシリーズ作業療法テキスト>、中山書店						
参考書	吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう 作業科学入門、第2版 医歯薬出版株式会社 小川真寛、藤本一博、京極 真：作業療法の理論の教科書、メジカルビュー社						
実務経験に関する記述	病院や地域での臨床経験を有する教員が、作業療法の学問的基礎となる知識について講義を行う。						

授業科目名	研究方法論 I		(フリガナ) 担当教官名	ハナ オカ ヒデ アキ 花 岡 秀 明			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科	1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別
科目概要	研究は、作業療法士の社会貢献の一環として重要な活動である。本科目では、研究の意義を理解するとともに、研究を行う上で必要な基礎知識について学ぶ。						
到達目標	①研究の意義を述べることができる。 ②研究を行う過程について、説明することができる。 ③量的研究と質的研究について、説明することができる。 ④研究デザインや測定した変数の種類に応じた代表的統計手法を説明できる。 ⑤研究を行う上で必要となる基本的な倫理的配慮について説明できる。 ⑥研究計画書の内容について説明できる。						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション（研究とは何か、作業療法における研究の必要性を考える。）						花岡秀明
2	研究の進め方（研究の流れ、研究計画の基礎）						花岡秀明
3	文献レビュー（必要性、やり方、進め方）						花岡秀明
4	研究の種類とデザイン（量的研究と質的研究、主な研究デザイン）						花岡秀明
5	代表的な解析方法（尺度の種類、尺度水準と研究デザインに応じた統計手法）						花岡秀明
6	グループ演習①（文献レビュー）						花岡秀明
7	グループ演習②（①に基づく文献抄読会）						花岡秀明
8	まとめ						花岡秀明
アクティブラーニング	文献レビュー（グループワーク）を通して、研究や論文構成の基本を学ぶ。						
評価基準	授業への取り組み状況 50%、研究の基本的な知識の理解 50%で評価する。						
教科書	1) 山本澄子 / 谷浩明：すぐできる！リハビリテーション統計 改訂第2版. 南江堂, 2019						
参考書	1) 柳井 久江：4Steps エクセル統計（第5版）. オーエムエス出版, 2023 2) 一般社団法人 日本作業療法士協会：作業療法研究法マニュアル 改訂第3版, 2019						
実務経験に関する記述							

授業科目名	評価法 I (身障) - 1		(フリガナ) 担当教官名	ニシコ オリ ケン ジ ジン ダ シュン スケ 錦織 健次・吉田 俊輔						
開講学期	後期									
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修			
科目概要	作業療法のすべてが評価から始まるとされており、患者の状況を把握する評価は作業療法士にとって極めて重要なものである。このような背景から、本科目では各種疾患を罹患した対象者に対し、適切な介入支援につなげることができるようになることを目指す。									
到達目標	①身体障害関連の評価の目的・意義を理解し、必要に応じて検査を選択することができる。 ②対象者に説明と同意を得た上で、安全に配慮しながら検査・測定が実施できる。 ③検査・測定から得られた情報を適切に記録し、説明することができる。									
回数	授業内容							担当		
1~2	評価の基礎と進め方： 作業療法における評価の基本的構成について学び、評価の意義と目的を理解し、評価の過程について説明することができる。また、リハビリテーションにおける問題解決プロセスを学び、リハビリテーション評価を実施する上で、評価計画の立て方を説明することができる。							錦織健次		
3~4	姿勢・形態測定（総論）、フィジカルアセスメント（総論）： ヒトの姿勢の特徴や姿勢評価の意義や観察のポイントを説明することができる。また、形態測定の意義・目的を説明することができる。							錦織健次		
5~7	フィジカルアセスメント実技（血圧・意識・痛み・脈拍）、形態測定：四肢長・周径（実技）							吉田俊輔 錦織健次		
8	反射概論（病的反射・深部腱反射）について説明を行う							吉田俊輔		
9	反射実技（病的反射・深部腱反射）							吉田俊輔		
10	関節可動域検査法（総論）について説明を行う							吉田俊輔		
11~12	関節可動域検査法：手指・体幹・頸部（実技）							吉田俊輔		
13~14	関節可動域検査法：上肢（実技）							吉田俊輔		
15~16	関節可動域検査法：下肢（実技）							吉田俊輔		
17	徒手筋力検査法（MMT）総論（検査選択、記録、対象者への説明等）							錦織健次		
18~19	徒手筋力検査法（MMT）上肢（実技）							錦織健次		
20	徒手筋力検査法（MMT）体幹・頸部・手指（実技）							錦織健次		
21~22	徒手筋力検査法（MMT）下肢（実技）							錦織健次		
23	徒手筋力検査法（MMT）全範囲（実技）							錦織健次		
アクティブラーニング	アクティブラーニングの内、「LTD」の手法を用い、実技内容について自己学習能力や思考力、チームワークを高め実技の実践を体験する学習方略を取る。									
評価基準	実技試験 60%、筆記試験 40%、実技試験は、全 4 回実施する。実技試験が全て合格、かつ、筆記試験で合格基準を満たした場合に単位認定とする。 1回目：形態測定・フィジカルアセスメント・反射 15% 2回目：関節可動域検査法（上肢・手指・頸部）15% 3回目：関節可動域検査法（下肢・体幹）15% 4回目：徒手筋力検査 15%									
教科書	潮見泰蔵他編：リハビリテーション基礎評価学 第2版、羊土社 新・徒手筋力検査法 原著第10版、協同医書出版									
参考書	1. 生田宗博編集：作業療法学全書 改訂第3版第3巻作業療法評価学、協同医書出版 2. 中村隆一他著：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版									
実務経験に関する記述	・発達・高齢者領域で 19 年の臨床経験を持つ教員が作業療法評価について実践教育を行う。 ・急性期から生活期での 10 年以上の臨床経験を持つ教員が作業療法評価について実践教育を行う。									

授業科目名	日常生活活動		(フリガナ) 担当教官名	ニシコ オリ ケン ジ 錦織 健次			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	日常生活活動（ADL）は人間が生存していくための最も基本的な活動である。本科目では、ADL および IADL の概念を理解し、その評価および分析のための知識・技術を習得することを目的とする。また、車いすや住環境についても演習を通じて学習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADL、IADL、QOL の定義を説明することができる。</li> <li>ADL、IADL の代表的な評価を学習し、内容について説明ができる。</li> <li>福祉用具の種類、目的、使用方法について説明することができる。</li> <li>作業分析の一部を実践し、運動学や評価法といった他科目と ADL のつながりを理解できる。</li> <li>住環境における基本設定（手すり、通路幅等）を理解し、計測の実践が行える。</li> </ul>						
回数	授業内容						担当
1	日常生活活動概論（分類、意義、目的等の説明）						錦織健次
2	ADL、IADL、QOL の各評価法の概要						錦織健次
3	FIM・FAI・AQOA 等の講義・演習						
4							錦織健次
5							
6	福祉用具の概要（種類、目的、使用方法）						錦織健次
7							
8	ADL 分析（工程分析・動作分析） 食事・更衣についてグループに分かれ工程分析・動作分析・必要な運動感覚認知等の洗い出しを行う						錦織健次
9							
10	ADL 分析（工程分析・動作分析） 入浴・整容・排泄についてグループに分かれ工程分析・動作分析・必要な運動感覚認知等の洗い出しを行う						錦織健次
11							
12	車椅子の種類と構造、介助方法について説明をし、実践を行う						錦織健次
13							
14	住環境（基本設定、計測、家屋図作成）について説明をし、実践を行う						錦織健次
15							
アクティブラーニング	アクティブラーニングの内、「LTD」の手法を用い、実技内容について自己学習能力や思考力、チームワークを高め実技の実践を体験する学習方略を取る						
評価基準	筆記試験 60% 演習・成果物（詳しい評価について適宜説明） 40%						
教科書	柴喜崇他編：ADL 第2版、羊土社 潮見泰蔵他編：リハビリテーション基礎評価学 第2版、羊土社 飛松好子編：安全な動作介助のてびき 第3版、医歯薬出版株式会社						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒井ひとみ編：作業療法全書 改訂第3版 第11巻 日常生活活動 協同医書出版社</li> <li>小川真寛 他：A-QOA（活動の質評価法）ビギナーズガイド 株式会社クリエイツかもがわ</li> <li>細田多穂監修：生活環境学テキスト（改訂第2版）（シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ）南江堂</li> </ul>						
実務経験に関する記述	10 年以上の臨床経験を持つ教員が担当する。						

授業科目名	生活マネジメント論		(フリガナ) 担当教官名	ヨシ 吉 ムラ 村	ダ 田 セ 瀬	シュン 俊 ヨシ 良	スケ 輔・トモ 野 知	ノ ナカ チ モ 中 アキ 千 晶
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修	
科目概要	人の生活は、いくつもの作業（生活行為）によって構成されている。一人ひとりの作業には異なる意味があり、また異なる形態や機能を有している。そのため、作業療法のクライエント（対象者）が大切にしている作業とそのストーリーを捉え、作業の可能化に向けた一連のプロセスをマネジメントすることは作業療法士にとって必須のスキルである。本科目では、クライエントの大切な作業を特定する方法と介入に向けた一連のプロセスについて学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>共同意思決定とは何かを説明できる。</li> <li>作業を特定するための方法を説明することができる。</li> <li>目標設定および介入計画を一部実施できる。</li> <li>作業療法プロセスの概要を説明することができる。</li> </ol>							
回数	授業内容							担当
1	オリエンテーション 作業療法のプロセスを概観する							吉田俊輔
2	クライエントとの信頼関係の構築と共同意思決定							吉田俊輔
3	作業療法面接							野中千晶
4	作業療法面接							野中千晶
5	目標設定と介入計画							村瀬良知
6	目標設定と介入計画							村瀬良知
7	目標設定と介入計画							村瀬良知
8	まとめ							吉田俊輔
アクティブラーニング	担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。・グループワークの資料は教員が学生に配布する、もしくは学生が調べていく。学生は資料を見ながら課題について、ディスカッションを行う。							
評価基準	授業態度 50% (ワークへの取り組み姿勢、発表)、成果物 50%							
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>斎藤佑樹、他：作業で語る事例報告. 第2版、医学書院、2014</li> <li>一般社団法人日本作業療法士協会編著：作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改定第4版</li> </ul>							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉川ひろみ：作業療法をはじめよう COPM・AMPS・ESI スターティングガイド 第2版</li> <li>京極真、他：OCP・OFP・OBP で学ぶ作業療法実践の教科書、メジカルビュー社、2024</li> </ul>							
実務経験に関する記述	約10年間の臨床経験がある教員が講義および演習を行う							

授業科目名	基礎作業学 I (理論)		(フリガナ) 担当教官名	ヨシ 吉 田 俊 輔			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目では、作業に関する基礎知識や作業を分析する方法について学習することを目的とする。作業療法の基礎学問である作業科学を中心に講義を行う。本科目で学習した内容を基礎作業学 II (技術) の演習に活用できるよう展開する。						
到達目標	1. 作業の意味・機能・形態について説明できる 2. 作業分析の方法について説明できる						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション 作業学総論						吉田俊輔
2	作業とは何か						吉田俊輔
3	作業の分類と作業バランス						吉田俊輔
4	作業の意味・機能・形態						吉田俊輔
5	作業と健康、幸福との関連						吉田俊輔
6	作業分析：工程分析						吉田俊輔
7	作業分析：作業遂行分析						吉田俊輔
8	作業分析：作業遂行分析						吉田俊輔
アクティブラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、作業分析を一部体験し、説明する。担当教員は学生が作業分析を実施する各グループを囲り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。 ・グループワークの資料は教員が学生に配布する。						
評価基準	ポートフォリオ・レポート 70%、授業態度 (発表やディスカッションへの参加状況など) 30%						
教科書	濱口豊太 他：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学、第4版、医学書院、2024.						
参考書	吉川ひろみ著：「作業」って何だろう、第2版、医歯薬出版株式会社。 長崎重信 監：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト作業学、第3版、メジカルビュー社、2021.						
実務経験に関する記述	約10年間、臨床にて作業に焦点を当てた実践を行ってきた教員が、作業に関する知識について講義を行う。						

授業科目名	基礎作業学Ⅱ（技術）		(フリガナ) 担当教官名	ヨシダ・俊輔			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	作業療法学科 1年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、作業実習にて実施と作業分析を体験し、作業に関する知識と分析スキルを学習することを目的とする。作業分析後は、内容をまとめて発表も行う。教員のフィードバックや他者の分析内容との比較を通して、多角的な視点を身につけられるよう展開する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員のサポートのもとで分析シートに沿った作業分析が実施できる</li> <li>AMPSの概要について説明できる</li> <li>基礎作業学領域の各種道具の名称や用途について説明できる</li> </ol>						
回数	授業内容						担当
1	オリエンテーション						吉田俊輔
2	基礎作業学領域の作業：作業種目、各種道具などについて						吉田俊輔
3	作業実習の概要について						吉田俊輔
4	作業実習①：事前分析（調べ学習を行い、分析シートに沿って事前分析を行う）						吉田俊輔
5	作業実習①：実施と分析						吉田俊輔
6	作業実習①：実施と分析						吉田俊輔
7	作業実習①：分析結果の発表とまとめ						吉田俊輔
8	作業実習②：事前分析（調べ学習を行い、分析シートに沿って事前分析を行う）						吉田俊輔
9	作業実習②：実施と分析						吉田俊輔
10	作業実習②：実施と分析						吉田俊輔
11	作業実習②：分析の発表とまとめ						吉田俊輔
12	作業実習③：実施と分析						吉田俊輔
13	作業実習③：実施と分析						吉田俊輔
14	作業実習③：実施と分析、まとめ						吉田俊輔
15	総括						吉田俊輔
アクティブ ラーニング	教員のサポートのもと、作業分析を主体的に体験する。						
評価基準	筆記試験 60%、授業態度（発表、道具の準備や片付け）40%						
教科書	濱口豊太 他：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学. 第4版, 医学書院, 2024.						
参考書	長崎重信 監：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト作業学 第3版、メジカルビュー社、2021。						
実務経験に 関する記述	約10年間、臨床にて作業に焦点を当てた実践を行ってきた教員が、作業に関する知識について講義を行う。						

授業科目名	国際リハビリテーション論		(フリガナ) 担当教官名	コウ 幸 福 秀 和				
開講学期	後期							
対象学科 及び学年	理学療法学科 作業療法学科	1年 1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	リハビリテーションの歴史、健康問題、国際的な社会・医療状況、世界のリハビリテーション医療状況について学びます。							
到達目標	国際的な観点から異文化圏における医療について理解を深めます。国際リハビリテーション論の観点から海外で活動している先駆者から学びます。国際看護学からの学びを通して、理学療法と作業療法の現場のあり方を学びます。							
回数	授業内容						担当	
1	国際保険医療学とは						幸福秀和	
2	日本と海外のリハビリテーションの歴史について。グローバリゼーションとは						幸福秀和	
3	JICA (国際協力機構)・民間の活動における海外支援について学びます						幸福秀和	
4	国際協力のあり方を先人の足跡を辿ることで海外の状況を理解します						幸福秀和	
5	アジアにおける活動について、具体的な活動の意味を広い視野で捉える。						幸福秀和	
6	ウルグアイ・ボリビア・ベトナムのリハビリテーション支援活動の紹介						幸福秀和	
7	看護領域が果たしてきた海外支援活動を視聴覚機器(映像)で紹介						幸福秀和	
8	映像に映し出された課題と実践における展望						幸福秀和	
アクティブラーニング	基本的な医療の知識の整理。リハビリテーションにおけるテクニカルタームを復習して下さい。前期に学んだ基礎医学、専門知識を整理して下さい。							
評価基準	レポート課題で評価します。3分の1以上欠席すると評価しません。							
教科書	特に指定しません。プリントを配布します。視聴覚機器を使用します。							
参考書	特に指定しません。プリントを配布します。							
実務経験に関する記述	ボリビア日系人病院、ベトナム、ベンチエ省障害児施設等、海外においてリハビリテーション支援に従事した教員が、具体的な事例を提示し、実践的教育を紹介します。							

授業科目名	総合演習 I		(フリガナ) 担当教官名	理学療法学科教員 作業療法学科教員			
開講学期	通年						
対象学科 及び学年	理学療法学科 1年 作業療法学科 1年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	本科目は、理学療法・作業療法の基礎となる解剖学、運動学、生理学の知識を統合することを目的としている。その中でも、骨の解剖、関節の解剖と運動、筋の起始・停止・作用・支配神経、循環器の解剖生理、腎・泌尿器の解剖生理、呼吸器の解剖生理、内分泌の解剖生理、消化器・嚥下の解剖生理に焦点を当てる。加えて、アクティブラーニングを用いて各疾患の病態と症状の理解を図る。さらに、情報通信技術に関する法律を学び、加えて、デジタル端末の基本的な操作方法を修得する。						
到達目標	1年次に学修すべく解剖学、運動学、生理学を復習し、その知識を用いて2年次に学ぶ、疾患学や理学療法評価学・作業療法評価学に応用していく基礎能力を身につけることができる。 デジタル端末の基本的な操作方法を修得し、プレゼン資料を作成することができる。						
回数	授業内容						担当
1~4	オリエンテーション（授業の目的・到達目標・授業の概要・学修の準備について） 骨関節靭帯の解剖学・運動学						堀江貴文
5	筋の起始・停止・作用・神経支配						1年生担任
6~21	情報通信技術の活用						山崎健治
22~23	循環器の解剖生理						神田一路
24	腎・泌尿器の解剖生理						神田一路
25~26	呼吸器の解剖生理						神田一路
27~28	消化器・嚥下の解剖生理						吉田俊輔
29	エネルギー代謝						神田一路
30	内分泌の解剖生理						堀江貴文
アクティブラーニング	アクティブラーニングでは、グループ学習を基本とする。疾患について病態と症状を解剖学・生理学・運動学の知識でつなげ関連図を作成する。課題を通じて、自己学習能力およびグループで協働する能力の育成を図る。 課題の詳細は、アクティブラーニングの初回講義に提示する。						
評価基準	試験 80%、課題 20%にて評価する。 ※骨関節靭帯、筋、循環器、腎・泌尿器、呼吸器、代謝、消化器・嚥下、内分泌の8分野毎に試験（それぞれ 100 点）を行う。試験において 60 点未満は再試験を受験することができる。 ※8 分野の平均得点および課題の得点の合計が、総得点の 60% 以上を単位認定とする。						
教科書	適宜、資料を配布する。 森本尚之・奥村晴彦（著）『基礎からわかる情報リテラシー コンピューター・インターネットと付き合う基礎知識 改訂第5版』						
参考書	国試の達人 運動解剖生理学編（株）アイペック 国試の達人 臨床医学編（株）アイペック						
実務経験に関する記述							